

県建設業協会

桜井高校で出前講座、保護者と懇談会

地域で役立つ先駆的な職業をPR

(社)富山県建設業「出前講座」を開催し、
21日、桜井高校で土木科の2年生39名に向
け、地域建設業の重要性や建設技術者の仕事、建
設業の魅力などを伝えた。



桜井高校で行われた出前講座

保護者との懇談会であります大橋社長

建設技術企画課の横田弘一主幹、同協会の会員企業役員として大高建設の大橋監修代表取締役社長、同校OBの建設技術者として大高建設土木部の大高克宏代表取締役社長、桜井建設土木部の上島尚哉氏が出席。初めて、同協会が作成した建設業界PR用DVDを視聴し、引き続き、横田氏が建設業の「くらしを創る」「地域を守る」「くらしを支える」役割について説明、「人が便利になるような物を作るのが土木の役割。高齢化が進んでいると言われているが、高齢になってしまふと仕事をすることができる仕事だと思つ」と話した。次に、OBの声として、大海寺氏が「発注者や現場で作業をする他の方など様な方と出会い、一緒に仕事をすることで、様々な考え方を知ることができる。仕事にも私生活

にも役に立つ」と話し、「地域建設業の魅力などを伝える。有給なども取得しやすくなっています。仕事と休みをつかり分けることができます。」と述べた。上島氏は「構造物が完成した時に達成感を得ることができます。建設業を目指す皆さんは、高校生の間に2級土木施工管理技術者の実験に合格できるよう頑張ってほしい」と話した。横田氏は、「昨年の台風災害で被災があった地域に当社からも災害支援を行った。テレビなどで、自衛隊や消防隊が災害復旧を行っている映像を見るが、実際は地元の建設会社が最前线で作業している。工事が完成したときには人が作つていいことは変わらない。どんな時代

でも、この日は午後6時30分から、土木学科生徒の保護者との懇談会を開催。保護者7名と、横田主幹、同協会常任理事の大橋社長、理事の高村社長、同校OBの大高寺氏、上島氏、上島氏が出席した。

また、大橋社長は、「工事は一つ一つ違い、多くの人とコミュニケーションを取りながら作っていくため、どんなにA-I技術が進んでも建設業は人間の力で作業している。人が作つていいことは変わらない。どんな時代

にも役に立つ」と話し、「地域建設業の魅力などを伝える。有給なども取得しやすくなっています。仕事と休みをつかり分けすることができます。」と述べた。上島氏は「構造物が完成した時に達成感を得ることができます。建設業を目指す皆さんは、高校生の間に2級土木施工管理技術者の実験に合格できるよう頑張ってほしい」と話した。横田氏は、「昨年の台風災害で被災があった地域に当社からも災害支援を行った。テレビなどで、自衛隊や消防隊が災害復旧を行っている映像を見るが、実際は地元の建設会社が最前线で作業している。工事が完成したときには人が作つていいことは変わらない。どんな時代

でも、この日は午後6時30分から、土木学科生徒の保護者との懇談会を開催。保護者7名と、横田主幹、同協会常任理事の大橋社長、理事の高村社長、同校OBの大高寺氏、上島氏、上島氏が出席した。

また、大橋社長が、「工事は一つ一つ違い、多くの人とコミュニケーションを取りながら作っていくため、どんなにA-I技術が進んでも建設業は人間の力で作業している。人が作つていいことは変わらない。どんな時代

にも役に立つ」と話し、「地域建設業の魅力などを伝える。有給なども取得しやすくなっています。仕事と休みをつかり分けすることができます。」と述べた。